

貨客混載輸送について

北越急行株式会社

1 事業概要と背景

旅客鉄道事業を営んでいる北越急行株式会社は、宅配事業を営んでいる佐川急便株式会社と、旅客列車を利用し幹線輸送荷物を輸送する貨客混載輸送を平成 29 年 4 月 18 日から実施しています。宅配便の輸送をモーダルシフトすることにより、温室効果ガスの削減などが図られています。

【背景】

- ・北越急行（株）
特急「はくたか」廃止により大幅な運輸収入の減を補完するために輸送余力を有効に活用したい
- ・佐川急便（株）
輸送ネットワークの効率化により配送品質の向上をはかりたい
⇒ 両社の意図が合致し、平成 27 年 12 月から交渉開始



2 事業内容

① 概要

佐川急便株式会社の幹線輸送荷物を北越急行株式会社の旅客列車で輸送する。

この時、同一車両に旅客と貨物（荷物）を混載する。

- ・実施前：佐川急便株式会社 六日町営業所 ～ 上越営業所間 トラック輸送
- ・実施後：六日町営業所 ～ 六日町駅 トラック輸送 3.3 km
六日町駅 ～ うらがわら駅 鉄道輸送 46.8 km
うらがわら駅 ～ 上越営業所 トラック輸送 16.6 km

② 実施時期

平成 29 年 4 月 18 日

- ・トライアル：平成 28 年 11 月 7 日・8 日
- ・ダイヤ改正：平成 29 年 3 月 4 日 ⇒ 列車の決定及び時刻の設定
- ・車内放送、HP、運行情報システムテロップでお客さまにお知らせ
- ・試行：平成 29 年 4 月 11 日から 1 週間（空のカーゴを営業列車に搭載）

③ 線区及び区間

- ・線区名：ほくほく線
- ・区間：六日町駅～うらがわら駅（区間距離 46.8 km 運転時分 約 38 分）

④ 列車

- ・上り列車（越後湯沢方面行き）
857M（2両編成） うらがわら駅（21:06 分着 09 分発）⇒六日町駅（21:48 着）
 - ・下り列車（直江津方面行き）
854M（2両編成） 六日町駅（20:10 着 13 分発）⇒うらがわら駅（20:50 着 53 発）
- ※ 2両編成の内、カーゴの積み込みは 1 編成のみ。最大 2 つのカーゴを車両へ設置。

⑤ 貨客混載列車の運行日数

- ・245 日（土休日と 3 大繁忙期などを除く毎日）

⑥ 車両の改造

- ・カーゴ（荷物）の設置位置：カーゴの設置は車椅子スペースを活用。
 - ・北越急行所属の全 12 両の車椅子スペースにラッシングレールを設置。
 - ・カーゴはラッシングベルトによって固定し、いたずらされないよう鎖錠。
- ⑦ カーゴ及びスロープの作成（佐川急便）
- ・自走防止のため、カーゴにはストッパーを取り付け。
 - ・お客さまがカーゴの角に接触してもケガをしないように緩衝材で覆う。
 - ・盗難防止と個人情報保護のため、荷物が見えないようにカーゴを金属板で覆う。
- ⑧ 設備
- ・エレベータの使用については関係自治体と覚書を締結。
 - ・JRとの共同使用駅である六日町駅に関して JR 新潟支社と覚書を締結。
- ⑨ その他
- ・列車運転士は運転業務のみを行い、トラックドライバーがカーゴの搬入・搬出・固定を行うという役割分担を明確化。万が一に備え、列車運転士はカーゴ取り降ろし訓練を実施。
 - ・列車に載せるカーゴ数に関わらず、車内スペース使用料として毎月一定額を佐川急便から頂くことにより、日々の事務作業を軽減

3 手続き

- ① 総合効率化計画の認定
- ② 鉄道事業基本計画の変更
- ③ 運送業務委託契約書 など

4 効果と課題

【効果】

- ・温室効果ガスの削減につながり地球環境の改善に貢献
- ・特に、少量の荷物の運搬に効果あり（トラック不要）
- ・夜間のお客さまの少ない時間帯の輸送余力を活用し収益向上

【課題】

- ・雪害時の輸送及び搬送ルート確保
- ・貨物輸送力の拡大
（列車への搬入・搬出設備の改善、
輸送行路の延長等） など



以上